



メイプルロード

Lover's presents
for adult only



く……

頼むからっ……
もう……
や……めっ……!!

まだ……
するのか

斗貴子さん……

やっ

ズ

あ

ズ

あっ

あ!!

ズ

ズ

ズ

斗貴子さん

又々

おしり...
もつと

あつ...

や

斗貴子さん

あつ

斗貴子
さんっ...!!

二人共
やめ...!!

頭が...霞んで...

飛び...からっ...!!



あー

…また
やっちゃった…



っ…ん…!



頭じゃ悪いって
わかっているのに

こみ上げて
くるものを
抑えられない

こめんね
斗貴子さん

罪悪感でも
感じているのか



最近様子が変だから
寄ってみたが…
何をしていた?

え?
いやちよっと
イメージ
トレーニングでも
やろうかなって
思ってたところ…



斗貴子さんっ
いつもの間にっ!?

返事がないから
勝手に邪魔
させてもらった

とっ



私の名前を
何度も口に
出していたなら

さすがに
気になる

バレてる!?

つと...
それはその...

かあつ

え



なるほど

イメージ
トレーニング
か
精の出る
コトだ

ちう

違つて
斗貴子さん!!

武装錬金の
イメトレを...!



嘘をつきたい
気持ちは解るが

一部始終
見てた

ずん

ま、おじいちゃん
と
鍵がけとくんだった...!

年上好きの
カズキなら

まあ

相当
効いたか?

私に欲情しても
おかしくはない

ただ

いきなり訪ねた
私も悪かった

適度に毒抜き
するのはいいが…

痴態を想像される
方はさすがに
いい気分はしないな

キミ

エロスは程々に
しときなさい

hy



コラっ
カズキっ
何をやる!?

ダメだ

オレもう
我慢できない

何を血迷った
コトをっ…!!

離…せっ!

オレが毎日
斗貴子さんのコト

どれだけ
考えてるか
知ってる?

そんなの

私を知る
訳がっ…!

斗貴子さんから
漂ういい香りとか

普段喋ってる時の
何気ない表情とか

戦ってる時の
凛々しい横顔とか

キッ

キミは私が
闘ってる間
見とれてたのか!?



コメン

わっわかったから
早く手を離…!!

でも

それくらい
目が離せないんだ

毎日あられもない
姿を想像して

いつも…!



いつもこんなコト
したいとか
思ってたんだ



んっ!!

あ…!

力…



ちゅっ…!!

そっ…!!

ちゅ…あっ…

ん…

ズキッ…!







カズキ…

そんな…
仔犬みたいに



んっ…

んん…あう…!



コッ コラッ
音を立てて
吸うなっ!!

くっ…あ
あはあっ!?



それ以上っ…!

弄るな
カズキっ…!!



だっ
オレ…

ひあっ

ずっとこうした
かったんだから



っあああ...
やあああ...!?

カズ...!



気持ちよかった?
:かな初めてで
何が何だか



カズキ…
や…優しく
頼む…!

斗貴子さん…

あれ…

いい…!
いいよ
斗貴子さん

うわっ…

あっ

もっと
ゆっくり…
あっ!!

慌てなくても
いい…そう
そこにゆっくり

と

?

カズキ





私はキミに

なん

なん

なん

なん

なん

してもらってばかりだ...



斗貴子さんと一緒にいられるだけでオレはいいから

十分だよ

これぐらいのコトしかしてやれない



—だが私は...



ずっと

こうしていたかったもん

あ...

どう…
斗貴子さん
気持ちいい？

心配…
しなくて
いいから

続けて…!!



構わないから
…中でっ

そのまま…!!

一緒にっ…!!

あ…

は





あ...あ...あ

あ

!!



あ...

あ...あ...あ



あ...

あ...あ



あ...あ...あ

あ...あ...あ



これからどう
なっていくのか
オレにも
わからないけど

全部終わるまで
錬金の力で
戦い続けるよ



戦いの世界に
飛びこんで

今はみんなを
守るために懸命に
戦ってるけど

この毎日にも
いつか終わりが
来るのかなって

最近...よく
思うんだ



そう考えると
終わって欲しく
ないような...

そんな...っ



斗貴子さんと
離れ離れになる日
が来るのかな

...



や...あっ!!



精液を

私の体中に

ブチ撒け
たいんじゃない
なかつたのか?



うえっ...

は...

げほ...



...余計なコトを
考えるな

カズキ



とめ...



今はっ… 私と…!!

一緒に錬金の力で戦い続けられたい…!!



くっ…!!

っ!!

くっ…!!



ああ

っん…!!

今はっ…集中しようよ…



私だってカズキと一緒にいられるのなら

—だが

…初めから住む世界が違ってたんだ

何か言った？
斗貴子さん

…何でも…

何でもない…
続けて—

スパート…
いくよっ…!!

やっ…
激っ…!!

カズキっ…

カズキっ…!!

私も余計な事を
考えないでいよう
今はただ
この時間を…





もう限界か？

どうしたカズキ

く

あっ!!



んっ...

ハア

うあっ...!



もっと気持ちよくしてやる

なるほど...
そうか

なら

え？

待つ...



キミはなかなか可愛い顔を見せるな

だってオレ...
初めてだからっ...!



斗貴子さん…
もっ…!!

ひいっ!?



う…!

き…!

う…!



カズキ!!

コラ…

ぬ

あ

や…ああ
あああつ!?

ぬ



っ…それ以上
したらっ…!!

止めろ…っ!!

あ…

あああ——

っ!!!

何お兄ちゃん
今の声!?

女の人の
悲鳴!?



って

何してるの!!

まひろっ!!?

二人って
そこまで
進んでたんだ!?

しまった

ちが
違っ
これはっ...!!

カズキの部屋
なのを忘れていた



ひょいっ

斗貴子さん!?

悪いのは全部
カズキだから

じゃ

ちよちよつと
斗貴子さん!
おいてかないでっ

お兄ちゃん

ズボンくらい
履いてよっ



カズキ君
何今の声?

女の声じゃ
なかつたか!?

部屋に誰か
連れこんでた?

ねーみんな
きいてきて

わーまひろ!!
頼むから
何も言うな!!

第一何しに
来たんだ!!

それはそうと
今の声は何だよ!?

まひろちゃん...
じゃないよね

んー何だが
シャツが...

パンツと靴下
履くの忘れた...

来週テストだから
一年の時の
ノート借りようと
思っ...

しまった...

